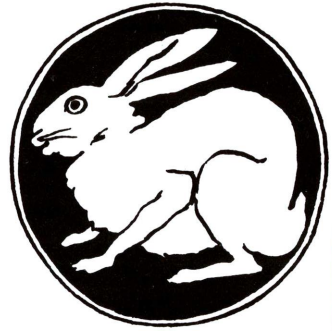


婦人子ども



大正四年十二月五日

第十五卷
第十二號



フ
レ
ー
ベ
ル
會

第十五卷第十二號目次

壯なりし今年の保育界

幼稚園に對する余の希望

幼稚園と家庭との聯絡の方法

寒國の幼稚園

校底の舗面工事と其の維持方法(カーチス氏)

フレーベル氏の九原則を評す(高島平三郎氏)

保育入門(十三)

土川 五郎

小山 秀

今 きよ

倉橋 惣三

フレーベル追懷錄

本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢 六冊前金郵稅共六拾錢
拾二冊同金壹貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六
番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學
附校屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正四年十二月一日印刷
大正四年十二月五日發行

編輯兼發行者 倉橋 惣三
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 倉橋 惣三
東京市本所區番場町四番地

印刷所 東京市本所區番場町四番地
凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 フレーベル會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

壯なりし今年の保育界

今年の我が保育界は、例年に似ざる活氣をあらはした。八月東京に開かれたる全國幼稚園關係者大會と、十一月京都に開かれたる全國教育大會の保育部會とは、即ち之れである。素より教育の本質は斯くの如き臨時の集會的氣勢の擧がるや否やによつてのみ云々せらるべきものではないが、諸方面の教育が、年々それ／＼の壯なる集會を有するにも拘はらず、我保育界にのみ久しく此事のなかつたのは、内より見て物足らず、外より見て甚だ振はざるものであつた。それが此の大正四年に於て、東西兩京に於て、しかも、いづれも非常なる盛大を以て開かれたのである。壯なりといはざるを得ない。

而して此の兩度の保育大集會は、たゞ一時的の賑さのみでないことは、いふまでもないことである。吾人は其の効果に就て、最少限度に考てるとしても、次の三つの點は見逃し得ないのである。第一は、幼稚園關係者即ち保育界内部のものに刺戟

を與へて其の自覺を新たにしたことである。第二は、保育界以外のものをして、幼稚園教育に對して認識を強く深からしむるに効あつたことである。第三は、會そのもの、熱心及び諸種の答申、建議等によつて教育當局の此の方面に對する注意を加へ得たと信じ得ることである。而して、之れ丈けにしても兩度の集會は大に其の効果があつたといへるのである。

併し、此の效果なるものは、實は未だ實現的に計量することの出来ないものであつて、之れは將來に期せなければならぬ。保育界以外のものは一時は注意しても忘れて仕舞ひ勝ちである。當局への建議案はまだ提出せられ受理せられたといふだけである。たゞ二度の大集會を開いたといふだけで事終れりとすべきでもなく、盛であつたのみ語り合つて居るべきでもない。壯なりし今年の保育界は之れから後の保育者自身の努力によつて眞に壯なるものとせられなければならない。

幼稚園に對する予の希望

東京市麹町小學校長
東京市保育研究會幹事

土 川 五 郎

世の中が益々繁雜になり愈々多忙になるにつれて、家庭教育には其缺陷が段々大きくなり、幼児の教育は極めて不十分になつて行くのは當然の理であります、茲に於て家庭教育の缺陷を補ふべき任務を持つて居る幼稚園は其必要を痛切に感ずべき筈であります。

今教育社會は幼稚園教育をどれ位の程度に於て必要を感じて居るのでせうか、若し小學校が入學前の家庭教育を基礎として教育を初める事とするならば、家庭教育の缺陷を補ふて、身體の發育、感覺の練習、精神の正しき誘導を行ふ所の幼稚園教育は、小學校の最尊重すべき大切なる基礎教育と認めねばならぬ筈であります、序に最も怪しむべき事が偶々ある、それは教育者が幼稚園の不必要を稱へる事てあります。しかしその論據

は極めて薄弱である、甚だしきは保育の實際を全く知らずして大膽に之を否認せられるのがあるやうで御座います。どうか教育社會が今少し幼稚園を重要視するやうになつて貰ひたいものと思ひます。國民教育が大切である以上は、その基礎となるべき幼児教育は決して輕視し得べきものではありません。教育社會のみならず一般社會からも時運に伴ふて其必要を感じるやうになり、學校の側からは其教育の實際と理論の上から其必要を認めて貰ひたいと思ひます。

小學校の先生は幼稚園を経たものはどうも我儘で困ると云ふて共同生活になれ活動性のあるものに我儘の一撃を喰はせますが、私はこんな事を云はれる先生の教育法が果して其當を得て居るか否かを疑ふものであります。

私の學校では多年の經驗から考へて、小學校の初學年では幼稚園教育を受けたものは可成他の兒童を誘導すべき位置に立たしめて之を活用する事にして居ります。これはますます其長所を發揮せしめる所以で、六ヶ年を通じて、幼稚園教育を受けたものは概して優良の成績を占めて居ります。其優良なる原因の中には家庭のよい事も含んで居りませうが家庭教育の缺陷を補ふ幼稚園教育も與つて大に力があるのであらうと思はれます。彼の大阪の如き上中下流に通じて普及したる幼稚園のある所の調査で見ても、小學校に於て現はれたる功果は明かに之を見る事が出來ます。

次に幼稚園の側から少し不平を申して見たいのでありますが、今日幼稚園教育は數に於て振はなればかりでなく其内容の進歩の極めて遅々たるは何故でありませう、私は次のやうな原因によるのではなからうかと思ひます。

一、一園に於ける保母數の少き事

二、幼稚園數の少き事。

保母數が多ければ研究も盛になり園數が多ければ研究の結果の交換も出來るまた競争も行はれる、かうなれば有力なる保母が生存して、所謂自然淘汰が行はれて活氣を添へて、來るわけである。保母數も園數も多ければ著書も澤山に出版せられる、保育の研究を主としたる雜誌も出來て來る、眞に日本の兒童を研究し保育の方法を研究する人も出るのでありますが、保母數も幼稚園數も少い現狀は全く其反對の位置にあるのであります。

私の希望に堪へないのは、もつと一般社會が幼稚園の必要を認めて町村設なり私設なりでもつと多數の幼稚園の設けられる事と、同時に保育料の低減を計つて幼稚園教育普及の道を講じたいと云ふ事でありませう。そして保母は修養を怠らぬやうにしてその學力を養ひ、保育の方法に十分の研究を積んで貰ひたい事でありませう。現今の如きフレールベルの見物やモンテッソリーの主義や、一般に

行はれて居る手工や唱歌に甘んじてしまはずに、
一歩々々と古き習慣から脱却して新生面を開いて

貰ひたい事であります。(文責記者)

幼稚園と家庭との聯絡の方法

大阪市三津幼稚園長 小 山 秀

幼稚園在園兒と云ひましても時間に於て少くも
一日の十分の八は家庭に居るのでありますから、
かりに如何に完全な保育をしたとしても家庭で其
心になつてくれなければ其効力を失ふと云ふ事は
論を待たぬのであります。さうでありますからこ
の連絡の手段をどうとればよいかと云ふ事になり
ますと無論各土地の状況、習慣、其他種々の事柄
の爲に多少相違は免れぬ事でありますが要するに
彼我の意志に於て隔心する所なく該幼兒に對して
の凡ての歩調が相一致する事が出来ましたなら
ば、よいのではありますまいか。

そこで先づ第一に考へなければならんのは何か

の機會を度々造つて其家人と接する度をなるべく
多くする事が最も益ある事と思ふのであります。

思いついた例を舉げて見ますと

一、入園前の取調べ。

入園前に於きまして其母又は親しく養育した
ものをお召して該兒に關する左の事項を可成
委しく聞きとり保育の參考とするのでありま
す

イ、生後より入園時に至る心身の有様。

ロ、家庭より見たる個性。

ハ、家庭のなりたち及宗教。

ニ、雇人の幼兒に及ぼせる影響。

ホ、父母祖父母の遺傳性の調べ。

二、小數保護者會

入園後一二ヶ月で少數宛の保護者會をいたしまして相方腹藏なく幼兒に關する意見を交換いたします

イ、幼稚園の方針を知らず。

ロ、入園後の家庭の責任。

ハ、保育の實際。

ニ、幼兒の家庭に於ける有様。

ホ、保護者の希望。

三、全部保護者會

少しく御祭騒ぎの様ですが全體又は一部を集めまして半ば談話半ば娯樂的に可成多く集め多く聞す方針でいたします。

イ、保育の原理の一部を知らず。

ロ、知名の人を招き演説を乞ふ。

ハ、保護者の保育に關する所感を述べしむ。

ニ、高尚なる餘興をなす。

四、幼兒に直接關係ある雇人會

雇人から幼兒を害する事の多いのはどなたも御存じの事で困つたもの、一つに數へられて居ります。そこで出來得る限り幼兒についての智識を與へてこちらのものにするのは、その者の爲でもあり、間接に幼兒保育者の一つとなるのであります。その會には左の様な事をいたしましたは如何でせう。

イ、小供に附添ふ心得。

ロ、主家に對する責任。

ハ、相當慰安。

五、老人會

孫を愛するのも老人、又誤るのも老人であります。もはや社會と戦ひ疲れ、現在も未來も樂しみ少なく、いつも過去にのみに思ひを馳せて居る彼の人達は其孫のすることは善惡非理の區別もなく可愛のは無理のない事でありますが其が爲に偏愛に傾く事もありませうし、

両親への不平を漏すために無邪氣な孫の精神に、とりかへしのつかぬ疵をつけ、しかも其害を知らぬ事もあります。これを未前に防ぎ且幾分の慰安を與へ小供の教育の一端でも知らしめたいと思ひます。それで、

イ、眞愛と偏愛との區別。

ロ、育児の概要。

ハ、幼稚園の方針の大略。

ニ、命令禁止の一致。

ホ、相當の慰安をなす。

六、平日の參觀

何の會へ、とて澤山人の集る時は幾分群衆心理によつて常に異なる所が少なくないのであります。申すまでもなく、この幼児保育と云ふ事は眞面目な内の眞面目な仕事で、決して上調子のものでありません。でございませうからこれはどうしても平日一人々々其保護者會に參觀をさせまして、そして徐に受持と

打合せをする事が先第一の効力を得る近道ではありますまいか。

イ、保育の實際及び該兒の有様。

ロ、該兒の心身につき打合せをなす。

集會に次で考へなければならぬ事は家庭訪問で御座います。これを平日と臨時の二に分けますと

一、平日の訪問

これはどうも弊害の伴ふもので困つた事がありますが、これを防ぐには入園當初に其致します趣旨を充分保護者にいつて置いて尙且保母の方の、常識に依つて臨機の處置を取つたならば、左程大した事はなからうと存じます

二、臨時訪問

幼兒の病氣の時とか又其家族に吉凶のある場合に親しく訪ふて、非喜を伴にするのであります。人は感情的のものであります殊に不幸の場合の慰問はどんなに家庭の人の満足させますか、申すまでもない事であります。これはどの方面か

らいつても、必ずせねばならぬ事と存じますが方法なり、程度は保母の方の常識によつてなさいましたならば、害はございませんまい。

次に書き物によつて致します場合これも無効には終りませんものでございます。

一、其幼稚園の規則書

二、夏期冬期の休暇の心得

三、一般家庭で注意せねばならぬ臨時の出来事

イ、流行病の注意。

ロ、幼児の口にすべからざる流行俗歌の禁止。

ハ、幼児に及ぼす社會風潮についての注意。

ニ、其他の偶發事項につきての注意。

四、通行簿を常に幼児に携帯さして通園を致させます、其内容は

イ、出缺席數、身體検査表、簡單なる双方の通

信、一般の心得、保育科の領收印其他。

其他の連絡方法といたしまして

一、附添を教育する事とか。

二、家庭のものも、つれて郊外保育をいたしますとか。

三、幼稚園で作つたものを持かへらします、例へば、

イ、幼児の蒔きて發芽せしもの。

ロ、草木の苗を與へ家庭にて培養せしむ。

四、家庭の人にも幼稚園の趣味を知らす事も一法です、例へば、

イ、粘土等を幼児に持ち歸らしめ家人に形を作

らしめ、幼稚園にて焼きて持かへらしむ。

ロ、幼稚園にて採取せし種子又は植物の苗を家

庭に與ふ。

ハ、教えつゝある幼稚園唱歌及、曲譜を刷り家庭に配布す。

ニ、幼稚園にて用ふる談話の大略を印刷し與

ふ。其他、これについてはどなたも色々御考へ

がある事と思ひます。

右の様なつまらぬ事を列記いたしました皆形式でございます、皮相でございます、が、この問題として最重要な忘れてならぬ内容、即精神は、真心得ございます。即真心から出た同情でございます。保姆の方でこれを忘れず家庭の人に接しましたならば、先方も人情のある以上は、いくら分らぬ人でございますも、相當な考をもつて保姆を信用いたします。この信用。これがくゝ最家庭

寒國の幼稚園

一 幼児の送迎

我が園にては通園に歩行困難なるか又は途中保護を要する幼児の便宜上積雪期は橇雪無き期は車を以て園児の送迎を致して居りますが、元來かゝる企てをした動機は當地は寒國で御座いますから毎年十月の終頃からそろゝ霰や霽は降り出して

から受取らねばならぬ、大切なものでございます。幼稚園と家庭の連絡は保姆が家庭から信用さるゝによつて萬事圓滿に且効力多く、解決がつくのであります。

つまらぬ事を長々と申しまして相濟ませぬ。

(編者曰。此の一篇は今夏幼稚園關係者大會に於て談話せらるゝ答にて時間の都合上中止せられしもの特に乞ひて本誌に掲載することせり)

青森幼稚園 保姆 今

お よ

道路は甚だ悪しくなり次第に雪となり降つては消え消えては又降り出す悪路は大人でさへ中々困難で御座います一月に入つてからは段々降つた雪は凍り次第に積り積つて地上高く固まりますから少し歩行は樂になります。毎日のやうな吹雪は是亦幼児の通行には容易の事で御座いませぬそれで毎

年十月十一月頃から三月の終り頃まで五六ヶ月の間休園又は退園するもの全園児の三分の一も出来ずので保育に張合がなく収入も減じ且つ幼児の家庭に於ては夏季ならば室外遊も出来従つて運動も充分で御座いますが冬季に於ては此の寒國にては室外遊びも出来ず室内に籠り暖爐や炬燵に寄りて間食のみ多く運動極めて不充分なるを以て健康を害ふ事甚だ大なるを悟りますと寒國に於ける冬季幼稚園は特更必要なるを唯通園の困難なるが爲めに其用を爲さざるとはいとも遺憾とするところで御座います、されば如何にもして此天候に打勝つべき方法もなきがなと思案の結果右の方法を案出したので御座います、初めは馬車にしたならばと思ひましたが費用は多くかゝつてとてもゆるしませんでしたに子供は軽いものだ割合に面積は要るものの重量に於ては大人の三四分の一しかない男一人の力で八九人十人位牽けるそして馬よりは人の力の方は静かで又意の如くなる子供を乗せるには

却つて適當だと氣が付きましたのでまあやつて見ませうと一昨年十二月普通の櫓（スキー）を二ヶ並べたる如き形のものに疊一疊大の箱を造り柱四本を立て上に屋根を張る但し屋根は亜鉛としました。

初めは一人の男を雇ひ一臺でして見ました成だけ費用の多くかゝらぬやにするため是ぞと仕事の無い人で安い賃金で雇はるゝ人を選びましたさうして一臺に七八人を乗せることゝし一人で二臺を受持たせました是れ雇人の都合と乗物設備の都合とを計つたので昇園の際も退下の際も二回に運ぶので御座います尤一回目と二回目との配當は豫め定め置きて朝一回目に來た組は退下の際にも一回目と致しますそして一回に來た子供も二回目と居残つた子供も一人の保姆は付添ふて適宜に遊ばせます丁度一と月行つて見ました處が各家庭から子供供からも大いに歡迎せられ今迄休んで居つた子供も悦んで昇園するやうになり方々から希望者が

増してまゐりましたので更に一臺を増しました。それで例年多くの缺席児ありしにも係らず右の方法を行ひてより缺席は誠に尠うなりました。然るに昨年は近年稀なる薄雪で御座いましたので二月に入りましてからは早や雪は消えて泥道となり櫓はとも牽かれずさては車に替へんかと右櫓に用ゐし屋根箱を其まゝ据付けて實行せんとした處普通荷車に人を乗するは法の許さゝるところなれば警察署につきて其事情詳細を陳述せしに警察署に於ても幼稚園にて常置人夫をして便宜上送迎せしむると云ふのならば差支へなからうと黙許さるゝことになりました、さて一安心だと思つて見ましたが今度は危険でいけない等言ふ人も御座いました。が牽く人にも幼児にもよく注意して行ひました處何の故障もなくおだやかに行ふことが出来ました。

さて此の企は重に冬季に於ける便法としたるものなれど春季に至り道路樂になりましたも乗員希望してやむことは出来ません。其わけは當市は幼

稚園の數少く市の全部にわたり入園児希望者あるも遠路の爲、又は往復附添を要する等の爲め、入園を躊躇するもの多かりしに右の方法に依れば極めて便利且つ幼児も悦びて昇園を希望すとの事から春季に至りても相變らず行ふことになつたので御座ります、爲めに昨年度よりは入園希望者多く在園児の數を増しました特に新入園の爲めには誠に都合よろしいと申されます昨年秋より乗員又も増加しまして更に一臺と増して三臺とし三人の牽手人夫を雇ひ一人にて各二回づつ往復し總員五十名内外運びます、即ち櫓三臺車三臺を設備致しました。

各乗員幼児の家庭よりは人夫雇人の費用の爲として保育料外に積雪期は一ヶ月金五十錢道路よき時期は三四十錢を寄附として約付致させます但し春夏期は道路よく且つ幼児の身拵へも、輕裝故一臺に約十人も乗するを得べきも冬季は是に反し七八人定員のみならず人夫にも賃金を増すを以てか

く致したので御座います、幼児の家庭よりは可成費用の負擔を尠くせんため種々の方法を講じ賃金尠き人夫を雇入るゝには他の仕事と兼用出來得る者を雇入るゝに如かずとし、町の夜番人をして行はせ或は送迎の間の時間に於て他の賃仕事を爲し得るが如きものを以てせしめて居ります。

さて茲に一言申上げて置きますのは歩行通園容易なりと認むるものは乗車希望ありとも可成歩行を勵行し其亂用を避けて居ります、茲に面白い御話は市内の子供は大概幼き頃より社交に長けて居ると見え車の中でも大人して互に仲睦しく乗つて來ますが町はづれや市外よりの子供等は至つて粗野なる爲時々喧争を始め等しますがかくも違ふものかと牽手は笑ひますが併し何れも初めよりは次第々々に利口になり種々の談話や手遊びをなし或は唱歌をうたひ等して樂しさうに通ふやうになりました、地方の人々からは本園の新案だとか專賣特許だとか申されます、前申上げました通り初め

は冬季の便として行つたもので御座いました。が冬季のみならず夏季に於ても必要を多とせられ居ること御座いますから寒國のみならず降雪なき土地に於ても便法だと稱せられませうが、都の或る先生の御話には土一升金一升の價値ある土地に於て幼稚園を設立せんに理想の土地を得るに困難なる場合は市より離れたる閑靜なる土地に之を設ける方法によりて幼児を運ぶも極めて便利なるべしとの事で御座いましたから貴重なる誌上を拜借して廣く御紹介申上げました次第で御座います

二 冬季雪遊

當地方は殆年中の五ヶ月間は積雪期にして其間地上外遊出來ず降雪又日々の如き有様なるを以て屋内遊嬉のみ多きは當然なりされば偶々晴天の日は努めて郊外遊をなさんと盛に雪遊を催しますが其種類種々御座います、先づ雪合戦につき申上ますと是れは初め出た時は元氣よく戦ひますが固き玉の強く面部等に當りました時等は泣く子供はあ

つたりしますし實際大人でも堪え兼ねる程痛い事は御座いますからどうしても首尾よく終へる事は六づかしい事に思ひましたので一つ雪合戦の的を考へ作らせましたそれは、亜鉛にペンキを塗つた子供人形を色を別々として二個をつくり源平に分かれて戦ふので御座いますが玉は右人形的に命中しますと頭は後方に折れるやうにし折られても又直ちにたてることの出来るやうにしたので御座いますが命中せしめし方の組は頭部の落ちるとともに勝利の悦を叫ぶ様誠に勇ましく御座います。

右的のことにつきましては何れ又後回に詳しく申上ります。

次に雪は砂場以上子供の好物となります

篋、杓子、籠、櫛、等砂場用具一式其上陶器店より器物の除き物を極めて安價に求めて（種々なる形あり）共に興へ時に粘土板をも興ふることあり手の凍える時等はネル布にて作りたる手甲を備へ置きて用ゐさせかくして各兒は思ひ／＼に自己

の意に叶ひたる遊びをなし、或は筵の上に座す乍らするもあり傘立を上、下にして出せば砂箱形になるを以て此處にて立ち乍らするもあり、地上到る處銀世界なる積雪の上は屋根より下ろしたる雪の高くなりて山をなし屋上より高き處もあり或は坂をなし居る所もありて幼兒は唱歌をうたひ乍ら山の上り下りをするあり或はサーベルや雪篋にて土の見ゆるまでとて力まかせに穴を掘り其中に得たり顔に座するもあり、大なる玉を轉がし作るもあり墜道を作るもあり軒より太きツララを取り來りて金銀さんの寶物なりとて飾るもあり、實に無限の興味ある遊が出来ます、子供は風の子とが申しますが大人より寒さに堪ゆる時は御座いますそれで、かゝる寒國でも冬季に於て晴天の日時々御座いましたなら雪無き地方の子供の年中地上遊のみするに比すれば子供にとりては天然物を相手に變化ある面白き遊びが出来ますので此の上もなき仕合で御座いますが本年は殊に晴天稀なりしを以て幼兒に満足を與ふること出来ませんでした。

校庭の舗面工事と其維持方法

前米國遊園協會幹事
現コロンビア州遊園監督

ヘンリー、エス、カーチス氏

(此の一篇は東京市教育課に於てカーチス氏著「エシニケージ
コンスループラー」より抄譯せられたるもの。素と學校々庭
に關すれども、幼稚園の遊園に關しても資する所尠からざる
を以て、乞ふて茲に掲載したり)

校庭の舗面工事

合衆國の諸都市に於ける校庭には、不完備なるものが甚だ多い、其使用に堪へ得るものは五割にも達せないと思ふ。此等の不完備なる運動場は、多く煉瓦片又は灰殻を敷き、降雨の際は各所に溝をなし、樹木は根を露出して、其上を駈け走ることなどは、到底不可能である。運動場は通例校地の四分の一位で、それを充分利用すべきであるが、實際は校庭の不完全の爲めに二割五分位の利用程度に止まるのである。中には校庭購入費として一萬

弗を投じたるに拘らず、之れを校庭として役立つに、百弗も懸けないのが多くある。學務委員は校舎は一通り造つてくれるが、運動場のことについては全然忘却して、地下室から掘り出した土、塵芥等の始末をせず、地面は穴と小高くもつた土で満ちて居るといふ有様である。之れは殆んど信ぜられないやうであるが全く事實である。一萬弗の購入費を投じた校庭が、地均の上舗面工事を施すに一千弗の支出を必要とするに拘らず、其一千弗のない爲めに一萬弗を棄つることとなるは、確に、賢い方法でない。斯様の所では不取敢午後早仕舞して、各兒童に熊手、草搔を渡し、之れ等兒童の力によつて、溝を埋め、燼滓又は煉瓦を除去し、露出せる石を掘り取り樹木の根を切り取る

がよからうと思ふ。村落學校の校庭中、此簡單な方法で、五割方の進歩をすることの出来るものが半數はある。

更に、又、校庭舗面が遊戲上より考へられなかつたことは明かである。従來大人の遊戲に於ては、三種の舗面が可とせられた。

(一) 草地 (廣大なる空地を要する野球及蹴球

其他一般の競技に可なるもの)

(二) 砂を含みたる眞土又は砂を以て蔽はれたる粘土地

(庭球に可なるもの)

(三) 燼滓を敷きたる地

(徒歩の路として可なるもの)

學校の舗面としては、一般に、煉瓦、セメント、砂利又は碎石を使用する、今校庭の舗面に必要な條項を擧ぐれば、

(一) 平坦なること、

(二) 雨後泥濘とならざること、

(三) 晴天の際塵埃を飛散せざること、

(四) 彈力を有すること、

(五) 柔軟にして轉倒をなすも差支なきこと、

(六) 夏季溫度非常に昇らざること、

(七) 冬季に於て沁らざること、

(八) 過度に兒童の遊具及び衣服を損せざること、

(九) 就中、震動と打撲によつて兒童の神經組

織を損せざること、

以上の條項を悉く備ふる舗面を求むることは難事なれども、不取敢出來得る範圍に於て之を實行せなければならぬ。

茲に、以下順を追ふて、舗面工事材料として、使用せらるゝ、草、煉瓦、セメント、砂利、碎石及燼滓について述べん。

第一、草。

校庭に草を繁茂せしめ同時に遊戲をなし得る學校にては、草は恰好なる舗面材料である、然なが

ら、此方法は、大なる校庭に小數の兒童を有する村落學校にのみ出來得ることであると思ふ。私は南部地方の都市の學校に於て、活潑な遊戯をなす場合に、バームダ草が至極適當なることを認めた、南部の比較的小なる都市に於ける舗面問題は、此バームダ草で解決することが出來ると考へらる、多くの場合に、運動と草とは相容れざるものであつて、學校は兩者何れかを選択せざるべからず、故に、若し運動の代りに、裝飾の目的を以て、草を選択する學校があるならば、其學校は宛も教室について黑板の代りに壁の模様を氣にすると同様である。

第二、煉瓦

合衆國に於ける大都市の學校にては、其校庭を煉瓦敷にすることは少くない、惟ふに、此舗面は掃除人の喜ぶもので、彼等の仕事の上から見れば實に好ましき校庭である、雨の降つた後、校舎内が泥だらけとならず又足跡もつかない兒童等は街

路の方が寧ろ好ましいと思ふほど、此種の校庭で走り廻はることは困難であつて、結局掃除人は樂をする。煉瓦は善いといふた所で、堅くて、強く、一步一躍の度毎に、神經組織に震動を與へ、又、轉倒した場合に、膝に悪性の打撲傷を與へ、且、屢々ズボンに穴を穿つこともある、更に、私の知つて居る範圍にては、大抵の煉瓦造の校庭は、多少凹凸があるが、柔軟なる煉瓦を混するかにより、雨後水溜を生ずる虞がある、尙、冬季霜に犯され易く、其節は走るにも歩行するにも非常に困難を感じるものである。校庭に煉瓦を敷いて居る學校の學務委員が、其の煉瓦敷の上に出て、野球の一勝負でもしたならば出來るものなら翌日直に其煉瓦を取り除きたいと思ふであらう、一體、煉瓦は一般に兒童遊戯の大部分に適せないで寧ろ庭球技に適すると思はるゝ、然ながら、庭球俱樂部で煉瓦敷のコートを造りたることをまだ聞かない。

第三、セメント。

セメントは比較的煉瓦より宜しい、煉瓦の如くに迂り易くもなく、凹凸も少ない、且、駈けるに容易である。紐育市に於けるが如く、學校は非常に大なるに校庭は非常に小さい學校にあつては、セメント或はアスハルトは當今役立つて居る眞に唯一の實用的舗面であるかも知れないが、併し、セメントも亦煉瓦と殆んど同様な難點があるのである。

第四、砂利と碎石。

砂利と碎石とは（殊に前者は）校庭舗面に使用せらるゝことが、多いけれども、一般に不適當なものである、それは必ずしも砂利其ものが悪いのではない、寧ろ使用さるゝ材料の種類が悪いのである、碎石或は大きな小石敷の上を走つて見て、如何に困難であるか解る、散亂した石は踝を痛め、走るものを惱め、絶えず軽度の挫傷を受け、一度轉倒すれば尖つた小石の爲めに深い傷を受くることがある。多數の兒童は春夏の季節に裸足の

まゝ歩行し、小石の爲めに絶えず足及趾を負傷するから、斯様な舗面は兒童にとりては成人に比して十層倍も悪い、尙其上に此種の校庭は數週にして一對の靴を損じ、又、野球戲及ボール戲に用ふる球などは一日で破れてしまふ、多分一ケ年間に衣服及運動用具を破る爲めに要する費用で、充分適當に舗面工事を施すことが出来るであらう。校庭舗面に用ひらるゝ砂利又は碎石は豆より大きくては宜しくない、即ち四號の彈丸位が適當と思はる、シカゴ市の遊園に用ひらるゝ小さくして丸き砂利（水雷砂利と稱せらる）は、舗面に使用して遊戯には眞に満足なものである、粉狀碎石例へば馬車道及庵球コートの上面に仕上用として敷くものも如きも亦校庭舗面用として結構である、水雷砂利は一立方ヤード凡一弗半で約百平方ヤードの舗面には此一立方ヤードの砂利を用ふれば宜しい、尙建築請負人から此水雷砂利の供給を受くることは容易である。碎石の方は駈けるに困難を感じる、

又、衣服及運動用具を損ずることが速かで、一般に遊戯上不適當であるとせられる、更に碎石は兎角校舎に痕を附けると云ふ學務委員の反對説も尤もである、併し若し此碎石が眞土又は砂で一吋か二吋（約八分五厘か一寸七分）蔽はるゝならば、優良なる地下排水設備となり、其結果として眞に善良なる遊戯用舗面を造り得るのである。

第五、燼滓。

粗末なる燼滓の爲めには、午後一度の野球戲で球一個を使ひ盡すやうである、又靴を破り、倒れた時に衣服を破ることは珍らしくない、細かく碎き軋こで堅め平坦にせられた燼滓敷は、走るには甚だ善き舗面であるが轉倒したる際は甚だ不愉快なものである、此燼滓はこれまで走るのを目的とする路面にはいつも用ひられた。倫敦市の公立小學校の大多數及我國の市立小學校の殆んど全部は、燼滓を以て舗面工事を施行して居る、併し何と云うても、燼滓は夏季に於て温度高く、細かい燼滓

は可なり善い舗面となるも外見上好ましくない。
第六、満足な舗面。

以上舗面に關する所説は各種の舗面の間に優劣の差はあるが、結局何れも全然満足すべきものではないと云ふことに歸着した、併し茲に、一般に使用せられて居るものよりも比較的善い舗面がある、レーランド氏は満足なものとして粘土質の眞土に燼滓を混じたものを薦めて居る、又、善く地下排水設備をなしたる砂混りの眞土は大體に於て可なり満足な舗面である、25而して其最も満足なる舗面は、土地を可なりの深さに掘り下げ、其掘り下げたる地面に排水の目的にて傾斜をつけ、其上に元通りの所まで燼滓、碎石又は兩者を以て填充し、更に其上に砂、細かい砂利又は碎石にて上層をなし走るに便ならしめたものである。

校庭の維持方法

從來、校庭は一度造ればいつまでも現狀を保持

するものと思はれて、其維持について顧慮することとは誰の義務でもないと思つて居る、併し一度出来上つた仕事を其儘にして、維持の方法を講じない計劃は多くあるまい、草、煉瓦、セメント又は其他のものを以て造られたる校庭は、少くとも一年に一度は地均をすべき筈である、兒童自身がこの地均をするのも宜しからうと思ふ、併し大概の校庭は之れよりも一層の注意を要するものであつて一年に一度の修補は全く最少限の要求である、又、塵埃を沈める爲め時々撒水することが必要である。カリホルニア州ではアスハルト性の重油を用ひ、尙更に上面に砂を撒布することが通例である、之れは道路にターピアを敷くと同様である。ヒラデルヒア州ではグリユートリンを學校の運動場に使用する、此グリユートリンは紙製造の副産物で、繊維の外はスプルーヌ、トリー（樅の木の種類）の成分全部から出来て居ると云ふことで、遊戯を目的とする舗面の改善には非常に貢献あり

とせられて居る。ダブルユー、デイー、チャンプリン氏はヒラデルヒア州に於けるグリユートリンの使用について次の如く云うて居る。グリユートリンは粘着性の濃厚なる液であつて一般に糖蜜のやうな色を呈して居る、水には非常に溶解し易き故に之れを適當に稀薄になし、又は降雨の力により舗面に満遍なく染み込ますことが出来る、其乾燥した後には強き粘着性を有する（中略）眞水で冴れないものはグリユートリンにも害されることはない、価格は一ガロン（約二升）何程なりやと云ふに、一籃より少ない容積で十封度二分の一の目方の材料が一ガロンについて十五仙（約三十錢）で販賣せられて居る、但、普通は一籃分の價が十四仙（約二十八錢）で撒布費用は凡一平方ヤード二仙（約四錢）見當である。

規則として、最初運動場に撒くグリユートリンの分量は、一平方ヤードについて一ガロンの十分の五乃至十分の六が適當である、又混合の割合は

リユートリン一に對して水二と云ふのが宜しい、第二回目から其分量は一平方ヤードについて一ガロンの十分の二乃至十分の三で割合は凡グリユートリン一に對して水三が宜しい。地下排水のため

に舗面全部に十吋の勾配をつけ、かくして造られたる面は正確でなくとも出來得るだけ平坦にし、重量五噸以上の汽轆スライムローラーで固めることを要する、此勾配をつける爲めに生じたる残りの土及材料は取り除けて處分せんければならない、更に出來上りの五吋厚さの豫定にて堅い石炭殻を十分撒布して五噸以上の汽轆で固め、尙、其石炭では最初も固める間も充分濕つて居るやうにすることが必要である、固め方は一人で澤山かも知れん、それから、節にかけた石を敷いて仕上五吋以上の厚さになるや、尙も其上から重量五噸以上の汽轆で固め、(濕式)又、舗面に勾配をつくることを要する、以上の如く充分且適當に固められた舗面全部に對して、グリユートリンの半ガロンが一平方ヤードに吸収

せらるゝまでグリユートリンと水との混合物を撒布することを要す、其割合はグリユートリン一と水二とである。

摘 録

○フレーベル氏の九原

則を評す

(承前)

(高島平三郎氏述)

(六) 兒童ヲシテソノ發達ノ各段階ニ於ケル要
求ヲ満足セシムベシ

此の原則は何人も異論のあるべき筈はありませ
ん。併し今日に於てこそ教育者は之を見て當然の
事と思ひませうが一世紀近くも前に此の事を標榜
して起つたフレーベルは實に卓見の大教育家であ
ります。體人の生涯は種々の特別の生活が重なり
合つて出來て居るやうなものです。それですから
第一期の生活にはその生活特別の要求があり目的

がある譯です。第二期の生活は固より第一期の生活を通過して來るのでありますからこの點から考へれば第一期の生活は第二期の準備であり基礎であつて獨立の價値が無いやうでありますが決してさうではありません。各時期は一面にそれ自身が目的であると共に他面に次の時期の準備となるのであります。それですから人の生涯は各時期々々の要求を圓滿に遂げてさへ往けば立派な生活か遂げられる譯です。生れたばかりの赤ん坊には之に相當する要求がありますから適當に之を満足させねばならず三つ四つの子供にも亦その時期に大切なるいろ／＼の活動要求がありますからそれを遂げさせてやらねばなりません。然るに幼な子に少年少女の時代に現はれるやうな事を強ひて望んだり又少年少女に青年の言ふ事や爲る事を求めたりするのは無理な注文であつて子供の爲めに誠に可愛想であります。

現代に於てはこの原理を否認するものは無い

でせうけれども親や先生が子供に就いての知識が足らぬ爲めに知らず識らずの間に之を背くやうなことを多く致して居ります。例へば幼な子に「大人しくせよ」といふのは一般の親の要求でありますがこれがそも／＼無理であります。幼な子はいくら教へても諭しても完全な幼な子となるのが理想であつてその時期に於ては決して大人となれるものではありません。ベスタロツチといふ教育家が「活動ハ兒童ノ天性ナリ」と申しましたやうに少しもちつとして居らずに何かいろ／＼と大人の所謂「イタヅラ」をするのが幼な子の生活であり要求であります。その「イタヅラ」をたゞの徒事とせずして子供の現在の生活の爲めにも將來の爲めにも役に立つやうに指導してやるのが教育であります。兒童心理の上から申しますれば子供の心には感覺の階級に屬する時代と觀念の階級に屬する時代と又思想の階級に屬する時代とがあります。幼稚園以下の年齢の子供は大體上すべての心

が感覺の階級に屬して居ますからこの頃の子供には例へ物事を見聞せしめてもすつかりその物を覺えしめる必要もなく又出來も致しまん。又學齡時代即ち小學校に參る頃の子供の心は觀念の階級に屬して居るのであります故前の時とは違つて外物を成るべく精密に觀察させて十分に心に取り入れさせるやうにせねばなりません。健全な發達を遂げつゝある子供ならば自然にこの頃になれば求智心が盛んになつていろ／＼の外物に興味を持つやうになつて參ります。この頃の子供にいろ／＼と複雑なる理窟を教へたり抽象した概念に屬することを話したりしても大した效はありません。又之と共に幼稚園の時のやうにただ／＼感覺に觸れさせたのみでは満足いたしません。必ずそれ相當の要求を調査して満足を與へてやるやうにせねばなりません。青年期即ち中學校高等女學校などの二三年級から上になりますればもう小學校の時のやうに一つ／＼の物事を觀察せしめてその精確な

觀念を得しめたからとてそれで満足するものではありません。必ず是等觀念の中に包まれて居るいろ／＼の關係を明らめ物事の原因結果をただし理由を釋ね組織系統を要求するやうになります。かやうに單に智力の發達する上から見ても大體上三段の時期がありますからその各時期に従つてそれ相當の要求に又相當の満足を與へてやるやうにせねばなりません。

(七) 常ニ和合ト愛情トヲ以テ規則トスベシ。

この原則も亦子供を取扱ふ上に極めて適切なものであります。凡そ子供を取り扱ふものは自分が子供になつてよく子供と一致和合せねばなりません。先生や親が自分は親である自分は先生であるというて全く子供の理解なく大人の心と態度とを以て子供に臨みましたならば如何に良好な教へも決して良好な結果を得ることは出來ません。佛教の言葉に一如と申すことがありますがこれが實に修養上頗る大切なことであります。すべての仕事

をするものがその取り扱ふものと一つになるとい

ふことは何事に取つても大事でありますが取り分け子供を取り扱ふものが子供と一つになるといふことは必ずなくてはならぬことです。現にスタンレ

ーホール總長も「自然と一つになることは子供の光榮であつて子供と一つになることは先生の光榮である」Oneness with nature is the glory of the

childhood, oneness with the childhood is the glory of the teacher. G.S. Hall というて居られます。

私はこれは實に教育者に取つて極めて大切な格言であると思ひます、子供が人爲で害されずにのびなくと大自然の導くがままに活動し生長し先生が又この子供の心と一つ心を以て子供を導くといふことは何といふ莊嚴の事です。私はフレーベルの貴い生涯が全くこの語の如く子供と一如であつたことを考へて同先生に無限の敬意を表するものです。日本に限りませんが現代の教育の缺點はこの大切なる感情を捨てて置いて無暗にいろ／＼の

理窟を以て子供を教育せんとするのに存すると思ひます。先生が學問を研究し子供を研究し教へる事柄の智識と共に教へられる子供の智識を得又教へるの智識を得る事も必要であります、これと共に先生が子供と一致和合して一つになる情熱がなくては迎ても眞の教育は出来ません。

禪の公案の中に自分の悟つた處を言ふすべも知らぬ赤ん坊に傳へるといふのがありますがそれなどは實に面白いとでその解答は全く教育の眞髓を得て居ります。即ち自分が全く子供と一如して子供が喜び遊び又は安心して睡るやうに抱きかかへ守りしてやる事です。これが實に教育の生命です。ただ年齢の進むと共にその一如の内容がいろ／＼と變化するばかりです。嬰兒幼兒の頃は「ネンネコ」でもよいでせうが少年少女の後半から青年處女期にかけては理解してやるといふことが一如する最大要件となるのであります。

愛情も歸する所は理解にあるのです。印度のタ

ゴールは「愛トハ全キ理解の別名ナリ」というて

居りますが實に卓見であると思ひます。父母や教育者が子供を愛するのは盲目的本能ではなりません。必ず合理的のものであつて愛情の後景には理智が伴うて居らねばなりません。それには子供をよく理解し各時期に於ける正當なる要求を知了して之を満足せしめてやらねばなりません。之が眞の愛情であります。凡そ如何なる教育も愛情が中心とならぬ教育は形式です皮相です。生命の無いものであります。愛情こそ教育と生徒との間に在つて教育といふ神聖なる事業に生命あらしめるものであります。私は此點に於てもフレーベルの敬虔なる信仰の生涯に於て全心を傾けて子供を愛した事に滿腔の敬意を表します。私は世の父母や教育者が眞の愛即ち理智を後景としたる熱烈なる愛情を以て子供に臨むに至らんとを切望致します。

(八) 人ハッソノ兒童ノ爲メニ生存セザル可ラズ。兒童以外ニハ人ノ生存ラシテ價値アラシムル

モノ一モナシ。

人が子供の爲めに生きて居るといふことは「べき」であると共に「ある」です。その意味は吾々人類が子供を有する以上はその子供の爲めに盡さねばならぬのは道徳の上からいうて當然の事でありませんが假令道徳の考ない者でも自然と子供の爲めに生きて居るやうになつて居るのです。即ち必然に人は子供の爲めに生きて居るのです。

人の生活が本能に導かれて居るのは今更いふまでもないことではありますが、その本能の中でも自護の本能というて自己の個體を護ることを主とする榮養防禦の本能があります。是等の本能があるから吾々は食物を取る事に就いていろ／＼の働をなし又敵を防ぐ爲めに或は攻撃したり或は逃げ隠れたりするのです。併し吾々人類はただ是等の本能を満足せしめて完全に生きて居るばかりではありません。更に生殖本能といふ強い働が起つて参りまして、男女兩性の間の愛情を導きます。その

結果は何であるかといふとつまり子供が生まれるといふことです。愛情の伴ふ種々の感情的葛藤は何れも皆この結果に導く手段に外ならぬのです。

若し人生からかういふ現象を取り去つたら宗教も藝術も道徳も殆んどその立場を失ふでせう。實に吾々人類の活動の大部分は此の如くにして直接間接に子供の爲めに費されて居るのです。

全體生殖といふことはその親の身體に取つては随分危険なことです、植物や下等動物の間には生殖を終ると同時に死滅するものさへあります。すべての生物界の現象を通観しますると生物は皆その子孫を繼續する爲めに生存して居るのであるといふことが認められます。それゆゑ子孫繁殖の目的を遂げた生物はもうこの世に用がないから死滅するのです。生物の壽命に大體の定まりがあるのもつまり子孫擁護の目的を全うする爲めに出來て居るやうです。随つて生物の階級が下等であつて子供が生まれると直ぐに獨立し得るやうなものは

比較的に壽命が短いのです。吾々人類は生物の中で比較的にも最も長い兒童期を有して居るのです。

即ち文明國に於ては子供が生まれてから少くも二十年乃至二十五年位までは親が保護してやらねばなりません。随つて一般の壽命も短くてはこの目的を遂げることが出來ませぬ故百歳乃至百二十五歳までも生活し得るやうになつて居るのであります。

併し親があまり長く生きて居ると子孫の進化發展の妨げとなりますからその定命以内には大抵死滅するのです。若し同一の人がいつまでも同じ境遇に在つて同じ生活を續けて居ますとこの世の中は永久に進歩することは無いでせう。それゆゑどんな人でも一定の時が來れば死滅して子孫が後を繼ぎ更に新しい境遇に新しい方法で順應して行くのです。そこで色々と變つた事が出來、その間には失敗することもありませうが、又從來と變つて大に進歩することもこれより出て來るのです。さ

うして見ますればフレーベルの第八原則たる「人ハツノ兒童ノ爲メニ生存セザル可ラズ」といふことはつまり必然の事を當然の事に持ち來つて一層深く一般の人々に此事を感ぜしめるやうにしたものというてよいでせう。通俗の意味からいうても親は大抵子供よりも早く死ぬもので親が生前にして置いた事は皆子供に影響するものです。いくら多くの金銭を積んでも死後まで持つて往くことは出來ません。残らず直接の吾が子かさらずば他の子孫の用に供するのです。いやでも應でも人は子供のため生存することとなる譯です。どうせ子供の爲めに生まるほどなら子供を十分立派な者に育ててあつばれ自分以上の人物とし自分の成し遂げ得なかつた事を子供に成さしめるやうに努めたきことでありませう。

又「兒童以外ニハ人ノ生存ヲシテ價值アラシムルモノ一モナシ」というたのはあまり言ひ過ぎて居るやうですがこれ又人生の根柢に就いていうた

ら眞實この通りでありませう。人には種々の欲望がありますからその欲望が満足せられた時にはこの世の中を價值あるやうに思ひ、若し之が満足せられぬ時は價值なくつまらぬやうに考へ、その甚しきに至ると厭世して自殺するものさへあります、併し人の欲望の根柢を釋ねますとつまり自護と生殖との本能に歸しその二つの本能の中でも自護は生殖の爲の基礎となつて居てその眞の目的は生殖にある事が分ります。それゆゑフレーベルの此の主張も必ずしも言ひ過ぎではありません。少くとも人の生存をして意義あらしめる者は子供です。意義はやがて價值であります。

(九) 兒童ノ最大要求ハ健康ト戶外生活(自然及土地ニ親ムタメニ)トノ二ナリ。

これは極めて平凡のことのやうであります、實は最も必要の事であります。第一の原則に於て述べましたやうに兒童は人類種族の發達史を反覆するものでありまして幼少の頃は未開人が始終戸

外に出て自然に親しんで居りました頃の状態をくりかへすのであります故子供天性として成るべく青天白日の下に置いてやる必要があります。

幼稚園などでは殊更室内の課業を少くして庭園森林海岸野原など危険でなくして自然物に親しみ得る場所に多く置いてやるやうにせねばなりません。毎日の課業も室内よりは運動場や庭園で多く過ぎさせるやうにすべきであります。殊に大都會の子供は各自の家に庭園を有する者は少く始終汚れた空気を呼吸して居るのであります故せめて幼稚園や小學校では晴れやかな運動場に於て十分に運動の出来るやうにしてやりたいものです。幼児の戶外生活を要求する天性に背いて室内に入れるのは學校教育上止むを得ぬことであります。それにしてもよく注意して次第に教室内の生活に慣れるやうにしてやらねばなりません。子供は幼稚園や學校に入りたてには健康を害することの多いものです。これは全く子供の從來の自然にして

自由なる生活と異つて一定の室に多人數一所に居り窮屈な生活をする爲めでありませう。要するに子供の幼い頃殊に幼稚園時代には努めて自然及び土地に親しませてやるやうにせねばなりません。

全體幼稚園の保育はその文字の示すやうに身體の養護を第一にすべきであります。固よりいつの時代の教育でも身體に注意せねばならぬのはいふまでもない事でありますが、幼稚園に於ては特に健康に意を用ひねばなりません。この頃の子供は自由自在に開豁なる野原や海岸を駆けめぐり新鮮なる大氣の中で適當な日光に照らされ大人に比較して二倍も三倍も食物を取るやうでなければならぬのです。これが實にこの頃の子供の要求です。然るに狭い室に多くの子供を入れて自由に運動も許さず悪い空気をさんく吸はせてこの中で何か教へやうとするやうな幼稚園はそれこそ人の子を賊ふものです。殊に幼稚園に來る頃の子供は最も流行性傳染病性の病氣に感染し易い時であります

から一層注意して成るべく是等の危険を防ぐやうにせねばなりません。醫家の中にはこの頃の子供が病氣に感染し易いといふことを理由として子供を幼稚園に入れるのに反対する人がある程です。それですから幼稚園の事業に従事して居る人は吳も氣を付けてかういふ危害を防ぐやうに努めねばなりません。

以上で大體の批評を終りましたが是等の原則はいづれも今日に於ても保育上並びに教育上の眞理

保 育 入 門 (十三)

九、幼稚園教育の方法

第三、其の手段 (つらき)

五、實物教育

として受容することが出來ます。假令フレーベルの方法が神祕的形而上學的立脚地から出て今日の心理學生理學及び教育學の進歩と伴はぬにしましてもその原理原則は依然として生命を有して居ります。今日以後の學者並びに實際家はよろしくフレーベルの如き人類の恩人の立てた貴ぶべき原則を時代々々に應じて適當に應用して往きその効果の大に擧がるやうに努むる責任があると思ひます。

(兒童研究第十九卷第三、四號より)

倉 橋 惣 三

世に實物ほど貴重なる教育手段はない。實物はそれ自身としての目的なり意味なりを有するものであつて、必ずしも始めから特に教育の手段とし

て考案せられたものでないことはいふまでもないが、それが幼児と交渉を生ずる時に、そこに直に立派なる教育手段となるのである。而して此の實物教育を自然的と、社會的との二つに分つ。

(一) 自然的實物教育。すなはち自然物を以てする教育であつて、幼児をして、常に之れに交渉せしむるの機會を與へなければならぬ。其の交渉の仕方には、間接的と直接的との二種があつて、間接的といふは、見物、鑑賞の類で、離れて傍から動物等を見るのである。直接的といふは、飼畜、培養玩弄の類で、動物等に直接するのである。物の種類により、自ら其の交渉法にも差違がある譯であるが、實物教育として最も効果の多く又適切なものは直接的交渉である。即ち知識教授に於ける直観といふ意味よりも一層進んで、深く又廣い意味を有して居るのである。假令ば幼児は小鳥や草花を學ぶために實物に接するばかりでなくして、其の自發的にして、相互的にして、具體的に

して、情緒的なる教育全體を受くるために、小鳥や草花に親しみ交るのである。更に換言すれば其の小鳥と草花の中に、全生活を正しく、また最も有効に實現し得るのである。此の意味に於て撰擇せらるべき自然物の種類は、極めて自由なるものである。科學的に正確に、鑑賞的に珍奇なるものである必要は少しもない。普通にして平常なるもので可なるのみならず、寧ろその方が却つてよいのである。たゞ其の趣味の傾向に於て、幼児に適するものでなければならぬことは、いふまでもない。其の他何の制限もない。

(二) 社會的實物教育。彼の自然物に對して、之は主として人事的なるもの、即ち社會生活の實狀である。假令ば汽車、電車、軍隊教練の狀、學校教室の有様、商店、工場の類いづれも皆、幼児に適切な社會的實物教育として用ゐられる處のものである。而して、之等は自然物の如く趣味に於て豊富なるものでないから、おのづから知的興味が

主となるものであるが、之等に對する幼兒の興味は極めて活潑なるものである。而して、此の交渉の仕方は、必ず間接的に、觀覽者の態度に立つて他はないが、それも必ずしも單に享受的のものではないことは、談話の場合と相似て居つて、幼兒は其のまのあたり見る處の世界に、活潑なる内部的自發性を以て生活するのである。さればこそ、之等は、次の時に於て單に言語として語りあらはさるのみならず、具體的に模倣となつて表顯せられるのである。而して、此の幼兒に交渉せしむべき、所謂社會的實物の撰擇は、自然物の如く自由でなく、教育的、内容的に幼兒に適當なる性質のものでなくてはならない。之れは、そのよからぬことを直に模倣するからといふのではなく、そのよからぬことの中に、幼兒の生活が營まるゝからである。そこに、好ましからぬ情緒的習慣が生ずると困るからである。

二

自然的實物教育にしても、社會的實物教育にしても、之れを教ゆるのが第一の目的でないから、必ずしも綿密詳細なるを要せず、また、一々之れを記憶せしむる必要もない。謂はゞ實物が其の獨特なる力を以て、幼兒の心を活かし、働かし、及び、感受させて呉れ、ばよいのである。若し之れを誤つて、徒に幼兒の觀念内容を豊富ならしめんとし、精密ならしめんとする如きことをのみ努むるならば、幼兒教育としての實物教育本來の目的を、超脱せるものと謂はざるを得ない。此の點は特に注意を要する。

三

之等の實物教育を充分に行ひ得るために、幼稚園は成るべく其の設備を豊かにしなければならぬ。動物の飼畜あるべく、多種にして撰擇せられる植物園、また畑地あるべく、以て、出來得る限りの實物教育を幼稚園内に於て、なし得たいのである。しかし、廣汎多様な自然を、小さい幼

幼稚園内に含攝することは難い。殊に社會的實物教育に至つては、到底之れを園内に於て期し難い。

すなはち、一方に於ては、幼稚園を能ふ限り實物教育の場所として用意すると共に、一方には之れを幼稚園外に求めなければならない。之れ、即ち、園外保育である。また園外遊歩ともいふ。素より幼兒といふ限度内に於て行ふことであつて、園外の距離範圍も亦限られたものであるが、幼兒としては、そこに廣き現實の世界に觸れ得るのである。但し、之れは必ずしも幼稚園がなさずとも其の機會は多いものであるが、如何にして之れを充分有効ならしめ得べきかは幼稚園教育の深く考究すべき問題である。

而して、實物教育を整理して充分有効ならしむる方法に、概念的整理と、發表的整理との二種がある。概念的整理とは、その實物より得たる處を、概念的知識に築き上ぐることである。發表的整理とは、之れを概念に化することなくして、そのま

まに、具體的に、發表することによつて、愈々具體的に、我がものとなり得ることである。其の發表は或は音楽となり、動作遊戯となり、手技、圖畫となり、また談話（幼兒の）となるが、いづれにしても、受けつゝ一度生活したことを、あらはしつゝ再び生活して、こゝに益々安定し、具着せる生活となるのである。幼稚園教育に於ける實物教育の整理の概念的整理によらずして、發表的整理によるべきものたることは、多く論を要しない。

六、實際生活

一

實際生活が教育の手段であることは、實物が教育手段であると同様にして、且つ一層切實なるものである。談話が與ふる假感世界の生活、實物が與ふる主動的實驗生活、之等にして教育價值の大なるものがありとすれば、實際生活が與ふる現實

世界の主動的被動的な生活は、教育價値の最大なるものでなければならぬ。茲に至つて、眞に自發的にして、眞に具體的にして、眞に相互的にして、眞に習慣的なる幼稚園教育の原則が、最よく實現せられ得るのである。

實際生活は實際の必要に基くものである。茲に眞乎の自發性がある。實際生活は實際の目的を持つものである。茲に眞乎の具體性がある。實際生活は幼稚園内の實際問題として、幼兒相互の關係を有するものである。自分の便利、他人の便利、之れが互に主となり従となり、又合一する。茲に眞乎の相互性がある。實際生活は日常の生活に反覆せられるものである。茲に眞乎の習慣性がある。机を列べる。友人のお辨當を配る。先生のお手傳をする。皆之れ立派なる教育手段である。

二

たゞ實際生活は、素より教育手段として考案せられて居るものでないから、之れを撰擇しなければ

ばならない。その撰擇の標準としては、幼兒が其のことにする意味を充分理解し得興味を有し得ることが最必要なる第一條件である。蓋し、幼兒に實際生活の一部を分擔せしむることは、實際生活そのもの、爲でなくして、幼兒のためである。若し幼兒が其の意味に理解と興味とを有し得ない様の場合には、幼兒は其の生活に使役せられることとなつて、全然幼兒教育の意味に反する。そのこと自身に直接の興味を有するといふことは、教育手段の如何なる場合に於ても必要のことであるが、實際生活は其の本來の性質が純實際的現實的に實用上の目的を有するものであるから、此點に一層綿密なる注意を要するのである。或は勤務的に用をさせられるとか、或は賞罰によつて他律的に促し行はせられるとかいふ類のことは、絶対に避くべきである。

* * * * *

* * * * *

以上述べて來た諸手段は、其の主なるものを擧げたに過ぎない。幼稚園は、その中に幼稚の最も自由なる多種なる生活を營ましむる處であつて、其の間から多種の教育手段を自由に發見し考案し得るのである。故に幼稚園教育の原則が前掲四ヶ條であることには變りなく、其の方法の基本が自

發遊戲であり、其の材料が遊具であることには變りなくして、而して、其の手段は無限に豊富に且つ自由なのである。すなはち手段はどこ迄も手段である。是れに固着し、是れに即し過ぎてはならぬ。要は教育にある。此の一事最も誤解があつてはならない。

ビエウロウ
夫 人 の

フレールベル追懷録

S K 生 譯

十二 アルテンスタインに於ける子供の祭禮(つゞき)

次に示す歌より更に多く子供の理解に適當なものは滅多にありません。

白い雪はふうわりふうわりと降つて来る、

野原は蔽はれ、草の實は守られる、

青い小草も心持よげに眠る、

やがてそれは芽を出すだらう、私に又あなたに、

雪の解け去る時、種子は頭をもちあげる、

その眠りはもう終つた——草は牧場を蔽

ふ、莖は高く延び、足穂は空に波を描く、——

されば我が子もいとほしく麗しく育つであらう。

母鳥は繁つた垣に巢を作る、
美しい巢の中に二つの卵が生れる、

小さい仔鳥等が殻を破つて出る時、

母鳥は翼を延べて仔鳥等をはぐくむ、

程なく仔鳥等はすこやかに育ち母鳥とうち連れて飛びまわる。

而て懐しい父鳥のやさしい歌聲に聞惚れる。

子供のサークルは腕や指を以てこの歌のバント

マイムを演じます、先づ降る雪の真似、續いて一面

にひろがつて居る雪の蔽ひの真似、それから芽を

出して来る種子、穀物の莖の延び行くさま、足穂

のうなだれる有様——子供は自分達の頭を下げて

之を示します、——などを演ずるのであります。小

さい子供達は指の動作、子供の手の體操的練習の
伴ふ飾氣の無い歌を喜んで聞きます。

それから母親は子供の小さい手と組合せて鳥の
巢を拵へながら次のやうに歌ひます。――

嫩い緑の枝の上に

母鳥は巢をつくる、

而してその中に二つの卵を落す。

仔鳥等の生れたその時は

母鳥は翼をひろげる

仔鳥等を心地よく温かにしてやるために。

やがて仔鳥等は叫ぶ、

「母ちゃん、母ちゃん、ビィ、ビィ、

もう歌を教へて下さつてもよいでせう。」

そこで鳥等は木の上で歌ふ

太陽は温く照らし、

ウィラーは私と一緒にその聲に聞取れる。

這麼風に子供の自然觀察を伴うて居る子供らし
い唱歌は全く必要なものであります。理解のない
批評家に對しては私達はジャン、ボールの「少年
期のやさしき花に近づく勿れ、汝の粗き拳を以て
花の埃を拂ふ勿れ、といふ言葉を引用しなければ
なりません。

フレーベルの遊戲の大部分のものが子供の心に
適合したものであるといふことの一番いゝ證據は
大きい子供といはず小さい子供といはず幾度とな
く是等の遊戲を行うて尙且その悦びを失はないと
いふことであります。成人した若い娘（保姆であ
ると否とに係らず）又は更に多く年を取つて居る
人々でも子供の悦びに對する感受性を持つかぎり
は子供と一緒に又は子供の中へ交つて大變喜んで
是等の遊戲を練習します。何處の保姆養成所もこ
のことの眞なることを裏書いたします。

アルテンスタインの祭禮に於ける子供の大群を
見て深い感激に打たれないものがありませんか、

又純なる仁慈的でないものによつて誰が感情を動かし得ませうぞ。

或る人は「これは情に訴へる光景です、子供達は本當にうれしさうに遊んでゐますこと」と言ひました。

又或る人は「さうです、フレーベルさんは子供を如何して運動させるかといふことを知つて居るのです、全くそれに違ひありません」と言ひました。

又他の人は「これは悅しい」と言ひました。

孫を連れて來てゐたしつかりした丈夫さうな農夫が「何でもあらゆるものを美しくすることを知つてゐる子供扱ひ手の一人を御覽なさい」と言ひました。

几帳面な陸軍大尉は「若しすべての子供が斯ういふ體操遊戲を受けて來ると新兵の訓練は本當に愉快なものとなるでせう」と言ひました。

リーペンスタインの浴客である一人の婦人は眼

に涙を浮かべながらフレーベルに「私は今までにこの子供の遊戲のやうに私を感激させるものを見たことがありません、まるで教會へ行つて居るやうでした、

それは丁度それほど獻身的に響いたのです」と言ひました。

フレーベルは「さうです、これが子供を否大人をも祝福し且つ向上せしむる遊戲の統一力であり、人間の眞の悦びは神の尊崇に他なりません、何故ならばそれは神によつて命せられて居るからであります」と答へました。

休憩を取るために中止がありました、子供達は用意された食物を食ふために立木のある芝生の堤の上にひろがりました、大人もこの仲間へ入りました、而して子供と同じやうに喜んで物を食べました、この休憩中止が終つて皆が新しい遊戲の仕度に取り掛つた時に公爵家の方々がお見えになりました。私はお迎へするためにミツテンドルフとフ

レーベルとを呼びました、二人は汗を流しながら此方へ來ました、二人の顔には悦びが輝いて居りました。

公爵夫人は「この幸福な子供の群れは何といふ美しい眺めでせう、けれどもあなたは遊戯の指圖にあまり働きます、私達と一緒に坐つて休みませんか」といひながら公子達のために設けられてゐた場所の方を指されました。

レーベルは怒つたやうに「いゝえ、それはいいません、私は子供達の方へ戻らなくつてはなりません、少しも疲れては居りません、遊ぶことは私に活氣をつけ又私を若くしてくれるのです」

公爵は「子供と遊ぶことはあなた位の年齢になるとそんなに樂なものではない」と言はれました。

ミツテンドルフは「レーベルは何時まで若くつてゐられる祕訣を發見いたして居ります。子供達と一緒に居りますと誰でも清新な氣を保つてゐられます、而して老人になることはありません」

と言ひました。

而してこの若々しい老人は遊んで居る子供達のサークルへ歸つて行きました、二人は絶えず此サークルに指圖を與へて居りました、二人の鋭い視力は子供全體の上に注がれて居たのであります。

九才になられる幼い公女が非常に熱心に遊戯を見て居られました、而して私の眼からは公女が自分もその仲間へ入りたいとあこがれの眼を以て遊戯を眺めて居られるやうに見えたのであります。

この公女はレーベルの仕事を全然知らないではありませんでした、何故ならば公女はレピン嬢によつて仕事の内のあるもの、殊に織物を教へられて居たからであります。

上流の子供は幼い頃から自分達を最幸福にしてくれるものを持たずに濟まさなくてはなりません——つまり同年輩の仲間と交つて幼い友垣を作ることが出來ないのであります、彼等は滅多に斯ういふ仲間を得ることは出來ません、下流の子供達

の持つて居る抑制されない自由といふものは彼等には何時も缺けて居るのであります。彼等が一般に教育に於て有して居る便宜といふものは概してそれに附隨して居る不便宜に立優るものではありません、傳襲的な世界に於ては子供時代の全幸福は滅多に享樂せらるゝものではありません。

遊戯が終つて後、公族は會衆の誰彼と愛想のいい談話を交されて運動場をお立ちになりました。

子供の團體は歸宅する元氣を得るために又休憩しました、小さい子供達の中には兩親に負れて行かなければならないなどといふものもありました。

隊伍が整へられた時彼等は先づ公爵のお城の前へ連れて行かれました、それは彼等が受けた厚意及び祭禮のために貸し與へられた場所のお禮として感謝の歌を捧げ唱ふためでありました。

彼等はそれからアルテンスタインの下方の數本の美しい古菩提樹の下の或る地點に達しました、路は此所から諸方へ分れて居りました、サルツン

ゲルスの花環で飾つた車は幼いお客様達を連れ戻るべく其處に控えて居りました。

けれども子供達は彼等の行手に進み出づる前に再び休憩すべく餘儀なくされました、而してミツテンドルフはこの時間を利用して數語の祈禱を行ひました。彼は皆によく聞えるやうに菩提樹の下に据ゑてあつた石榻の上にあがりました。而して彼の衷心から獨得の熱誠を以て子供達及びその兩親達に話しかけました。彼は子供達に（大きい子供達は彼の言ふことをよく理解しました）樂しかつた今日の日のために彼等の兩親に感謝しなければならぬこと及び將來の學校に於ける勵精及び家庭に於ける從順と愛とによつて再び斯る會合の開かれることに値打しなければならぬことを話しました。

その後で彼は兩親達に「いざ、子供等と共に生活せしめよ、地上に於てすべてのものが更によきものとなるために」といふフレーベルの提言を述

べてその意味を彼等に説明しました。

其他種々なことを述べた内に彼は次のやうなことを言ひました。

「神様のお思召によつて人間種族が生活の於高き階段にのぼるべき時が今や到来しました、斯る時に於ては丁度今の場合に於けるが如くすべての人の心に及び外的の生活に既に大なる運動が起つて居るのであります、かるが故に今や各人が惡を滅

亡せしめて善のために自由な通路を開いてやるやうに心掛けることが最適當なことであります。

先づ第一に爲さるべきことは子供達の善き教育によつて更に善き人を作ることであり、それ故フレーベルは、子供等を通して未來に處する現下の大問題を解くべく、彼の同時代の人々に子供達と共に生活するやうにと要求するのであります。「フレーベルは幼稚園に於て失はれたるバラダイスを再び得たのであります、子供達はこの樂土に於て極力惡から防護されます、而して彼等の能力

と性癖との調和的發達によつて有徳の男女となるやうに仕込まれます、子供らしい無邪氣さはホンの生れたての少しばかりの間にのみ屬して居るのであります。それ故子供達は極く最初から庇護されねばなりません、而してそれは母親の仕事であります。けれどもすべての母親及び處女は純美なる人間生活が繁榮してゆくために幼稚園の建設と管理とに盡力すべきであります。

「今日の子供祭は子供のバラダイスの一面を示しました、一同はよく是を覺えてゐて神様の思召である所の時代の要求に従はふではありませんか、又フレーベルの言ふやうに子供達の本當の保護者、養育者とならうではありませんか、」

聽衆は非常に靜肅にミツテンドルフの言葉に耳を傾けて居りました、此處彼處にゐた數名の母親は低い聲で啜り泣いて居りました、彼が語り終つた時に一同の者は彼の所に又フレーベルの所に殺到して二人の手を取り彼等の溫き感謝を現しまし

た。總ての手は握られました。而して同意と善き希望との外には何物も聞かれませんでした。

或る村の老婦人は「ミッテンドルフさんは實にお上手にお話なさいます、まるで救主が物語られて居るやうです」と言ひました。

遠隔の地からリーベンスタインへ入湯に来てゐた或る人は「この祭禮の時に居合せたのは實に幸福です」と言ひ、他の人は「私達の、地方にも斯る會合が起されるといゝな」と言ひました。

「神様のおめぐみは斯る日に下されるものです」と老農夫が言ひました、而して深く感激して、フレーベルの手を握りました、フレーベルは晴れがましい顔をして子供達を眺めて居りました——彼は普遍的となるべき習慣の模範即この日の祭禮によつて彼の所謂「人性の本に芽んだ新しい荅」の開花を促進せしめたやうに感じました。

私達は今や解散しました、その時皆のものはもう一度子供達の閉會の歌「友よ、いざや別れん」

や「又會ふ日まで、いざさらば」を繰返しました。この祭禮に就てフレーベルの書いた記録は次の文字によつて終つて居ります。

「然り、そは自然と人と神との相結びし祭禮なりき、而して一老農夫の云へるが如く神のめぐみは斯る日に下されたり、斯る幼年及び少年の祭禮は如何に容易く普遍的なる人民の祭禮となり得べきことよ、吾人は斯る祭禮を生活の中に入取るべくあらゆることを爲さむや、斯くて吾人は遂にすべての人の衷情の希望する圓滿にして缺くる所なき「生の渾一」に達すべきなり」

子供の團體は出發しました。別れの歌の最後の解を繰返すので透き徹つた子供の聲が四方に反響しました。マリエンタルのサークルの大人が歸宅のために解散した時は太陽は將に沈まんとしてフレーベルの所謂晶體の如く明るき雄偉な落暉が懸つて居りました。一同は夏の夕の軟い月光の中に喜んで居りました、私達の風土に於ては月光は殊

に美しいのであります。宜なる哉、彼等は今や長い間懐抱してゐた思想を斯くも立派に實現させることが出来、内心に幸福を感じて、靜かに歩みつつあつたのであります。

私は遂に言ひました「お、他の子供祭は私達の試みたもの、後を追うて起るでありませう、一つが實現されたからには何故子供祭といふものが國家的なものとなされないものでせう、何故ならば、彼等は本當に美しい意味を持つて居ります、更に高い更に貴い人類とならんがための民衆の祭禮が續いて起るでありませう、而して完全な「生の渾一」の究極の到達に各應分の寄與を爲すでありませう」

私は言ひました「今日の私達の祭禮中に於て私は幾度もゲーテが「ワンデルヤール」の學校部に於て言つて居ることを思ひました、それは多くの點、殊にその言ひ現されて居る象徴的形式に於てあなたの所説と符節を合せるやうに合致して

居ります」

「さうです、私は未だゲーテの「ワンデルヤール」を讀んで居りません、讀まうとは思つて居るのですが何時も果しません、それでですから私は「ルーヤール」及びその後編を噂によつて知つて居るのみなのであります」とフレーベルは答へました。「お、それならば私達は直ちにワンデルヤールを手に入れなければなりません」と私は言ひました、「私はそれを持つて來ませう、それから埃及の古俗に就て書いた本をも持つて來ませう、私はその中にこの頃私達の教育意見の眞理なることを證する箇所を發見したのです」

私達は此所で分れました、而してミッテンドルフとも分れたのであります、ミッテンドルフは一日二日より以上カイルハウを留守にして居ることは出來ないのであります、けれども彼は秋には又訪れて來るといふ約束をしました。

私が翌日ゲーテの學校部をフレーベルに讀んで

聞かせるつもりで彼に面會に行つたとき彼は既に忙しさうに祭禮の記事を書いて居りました、けれども彼は喜んで私の讀むのを聞いてくれました、而してゲーテの教育意見とワンデルヤーレの中に

あるこの教育意見の言ひ現し方とを本當に熱心に聞いて居りました。彼は屢々次のやうな子供らしい詠嘆を以て私を遮りました。「ゲーテは子供時代に於ける人間の心持を實によく理解して居ります」「新しい進展が達せらるゝためには人間の歴史の結合がしつかりと掴まなければならないといふことをゲーテも亦知つてゐます、若し子供達を未來に導いて行くつもりであるならば私達は當代の子供を過去の産物として仰がなくてはなりません」「子供はたゞシンボルを通してのみ眞理の理解及び子供自身の理解にまで導かれるのでありますそれは象徴的の活動を要求します」「身振は子供にとつて最も大なる意味を持つて居ります」などと彼は言ひました。

ゲーテも亦「學校部」に於て異つた年齢の子供の會釋の仕方になつて語つた時にこのことを認めて居ります。

實際、未來の人類の發展に對して豫言者の眼光を有してゐたゲーテは過現未に亘る人性を包含する所のフレーベルの説に一致せざるを得ないのであります、ファウスト（第二部）に於ける彼の表現「なべての物象は比喩ぞかし」はすべてのものは觀念のシンボルであるといふことを意味するものに外ならないではありませんか、ゲーテはフレーベルと同じやうに人の心の成長を助けるために眞理のシンボルが言葉より先へ行かなければならぬといふことを主張して居りました。

フレーベルは特に人類の最初の教養及び人類の最初の時期が示す事柄に係り合つて居ります、それ故それに關係のあることは何でも彼を殊に喜ばせました、私は埃及を問題として居る上記の書物に記載されてある事實に彼の注意を誘ひました。

埃及に於ては教養の最初に於て三人の優美な人即ち美の女神が互に依り合つて居る三個の立體によつて現されて居るのであります、——彼はこれを知りて寶物を發見したかのやうに悦びました。

「さア御覽なさい、私が子供の視察のために球につぐ最初の正しき形として立體を選んだといふことは全く正しいでありませう、埃及人はそれが自然に於ける又は結晶化に於ける團體の中で最初の正しい形であるといふことを知らなかつたのであります、けれども自然の正しい釣合のとれた形はすべての現象の基本的の形(型)でありますから自然に於てのみ發見せらるゝのであります、人が自然の子であるかぎり人はその起源の内部的の證據としてその心の内に自然の形とその法則とを持つて居ります、昔の人は真理のこの豫感を持つて居りました、我々近代の人々はそれを意識するやうになるのでありませう」

「私の著作に記されて居る球體に關するこの特殊の事實は屢々他人の著作の中に繰返されてゐたの

した」

私は又クロイツェルの「ジンボルク」から「若きバツカスはその教育者より玩具となすべく金の鞠を與へられたり、而して又波斯の若き王子等もこれを持ちて遊びたり、而してひとりこの特權を享有し居たり」といふ言葉を引用しました。この言葉はフレイベルを深く考へさせました、而して彼は言ひました「豫感といふものは何といふ大きな力を持つものでせう、さうです、真理の豫感に常にその認識に先立つものであります、球に於て渾一を示すことは最大なる特權であります、何故ならば神は渾一であります、而して發達してゐない人はたゞシンボルに於てのみ渾一を見ることが出来ます」

斯ういふことを話してゐた時にフレイベルの豫言者的な一面が現れて來ました、彼は人類の過去に溯つて考へて居るやうでありました、而して彼は其處に劫初からすべての時を結び合せて遙かに遠き未來、目標にまで續いて居る所の絲を探し求めて居るものゝ如くでありました。